

令和4年度引田こども園評価書

1 施設の概要

施設名	東かがわ市立引田こども園				園長	滝 知 代		
住所	〒769-2901 東かがわ市引田545番地6				TEL	(0879) 33-5220		
					FAX	(0879) 33-2240		
HP					E-mail	mlw2001@city.higashikagawa.lg.jp		
園児数 学級数等 (R4.5.1)	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	
	4名	17名	15名	19名	37名	34名	126名	
	1学級	2学級	1学級	2学級	2学級	2学級	10学級	
職員	園長 副園長	1名 1名	保育教諭	24名	保育教諭 補助員	4名	庁務員	1名
園教育・保育 目 標	心豊かで心身ともにたくましい子どもの育成							
経営の重点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的生活習慣の定着を図り、自立への基礎を養う教育・保育の推進 2. 生命の尊さや大切さを知り、優しい心、豊かな情操を育む教育・保育の推進 3. 乳幼児理解に努め、実態や発達、年齢に応じた遊びや体験活動を重視した教育・保育の推進 4. 保護者や地域に開かれたこども園づくりの推進 5. 協働体制の下、資質・能力の向上に努め、信頼される教職員集団づくりの推進 							
指導の重点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 0歳児から小学校までを見据えた長期的な視野から、基本的な生活習慣や態度の育成及び健康で安全な生活をつくり出す力の育成 2. 様々な体験活動を通して、興味・関心を高めるとともに、豊かな感性や周りの人・動植物を大切に思う心の育成 3. 一人一人の発達や興味・関心に応じた環境の中で、自分の思いを表出して伸び伸びと遊び、行動できる子どもの育成 4. 便り等による園の情報発信や保護者との人間関係づくり、地域行事への参加・交流等の積極的な推進 5. 職員研修の充実や教職員の連帯・協働意識の高揚を図り、“チーム引田”で取り組む体制の構築 							
学びに関する 内容 (R5.3見込)	総保育時間数							
	3歳児	1,155h	5.5h×		42週			
	4歳児	1,183h	5.5h×		43週			
	5歳児	1,155h	5.5h×		42週			

2 園教育評価

	評価項目	自己評価	学校関係者評価
確かな学びの定着	◎基礎的・基本的な学びの定着、伸長のための適切な指導が計画的に行われているか。		
	0～5歳児の発達に応じた教育・保育計画である。	B	B
	子どもの年齢や発達に応じた環境構成や保育内容である。	B	
	子ども一人一人の幼児理解に努め、思いや考えを大切にしたい関わりができています。	B	
	子どもの興味・関心、意欲を高め、子どもの育ちを支援する環境の工夫ができています。	B	
心豊かな温かい人づくり	◎豊かな心を育み、正しい規範意識と生活習慣を身に付けた子どもの育成が図られているか。		
	様々な遊びや生活経験を通して、人や動植物に目を向けた豊かな心を育むことができている。	B	B
	よりよい人間関係を築くために、子ども一人一人の思いを受け止め、寄り添ったり友達とつないだりする関わりができています。	B	
	人と関わるための基本的な生活習慣の形成に向けて、取り組みの工夫ができています。	B	
	集団での決まりを守る態度や規範意識を養うことができている。	B	
たくましく生きる力の育成	◎様々な体験を通して、心身ともに健康でたくましく生きる力を培うことができているか。		
	生活や遊びの中で、体を動かすことへの興味・関心を高めるような体験活動を取り入れている。	B	B
	家庭と連携して食育や保健指導を行い、規則正しい生活等、基本的な生活習慣の形成に努めることができている。	B	
	生活や交通安全についての意識を高める取り組みを進んで行うことができている。	B	
	様々な避難訓練を定期的に行い、危機意識を高めたり避難行動がとれるよう努めたりして、有事の際に備えている。	B	
教職員組織と研修	◎教育・保育課題を達成するため教職員組織や指導力を向上させるための研修内容になっているか。		
	全職員の共通理解の下、教育・保育活動が行える組織体制になっている。	B	B
	報告、連絡、相談を確実にし、連携し合って課題解決に努めている。	B	
	子ども理解や子どもの育ちにつながる研修の工夫ができています。	B	
	保育者が意欲的に園内外の研修に取り組み、自己研鑽に努めている。	B	
教職員の働き方改革	◎教職員のワーク・ライフ・バランスを考慮した業務の適正化等が図られているか。		
	諸帳簿やお便り等、デジタル化により、事務の効率化に努めている。	B	B
	園務分掌において、経験年数や担任学級等を考慮し、できるだけ均等化されるように努めている。	B	
	職員同士が協働意識の下、連携・協力してそれぞれの職員の業務改善に努めている。	B	
	行事や活動等の課題や改善点について見直し、負担軽減になるよう改善が図られている。	B	

保護者・地域との連携	◎園教育の充実のために保護者や地域との連携協力が図られているか。		
	園便り、園長通信、クラス便り等を通して、子どもの様子や取組を保護者に分かりやすく情報発信できている。	A	B
	保護者や地域、関係機関等と連携し、教育・保育活動の充実に努めている。	B	
	支援センター活動が地域の子育て支援につながる計画・実践となっている。	B	
	小中学校との子ども同士、職員同士の交流・連携に努めている。	B	
施設・設備	◎園児が安全に楽しい園生活を送れる施設・設備になっているか。		
	教材や遊具等の点検や整備を定期的に行い、必要に応じて迅速に対応できている。	A	A
	清掃や緑化に努め、衛生的、機能的な環境の保持に努めることができている。	A	
	常に危機意識をもち、不審者や災害等、有事の際の適切な対応に備えている。	B	

評価 [A : 十分達成できている B : おおむね達成できている C : やや改善の必要がある D : 改善の必要がある]

3 成果と課題 [○成果 ●課題]

- 子どもの興味・関心や課題を引き出し、子ども達のために良い方法を一生懸命考えようとした。みんなで話し合うことで良い結果が出てきた。また、子どもの援助の仕方でも悩んだときに話したり、相談に乗ってもらったりしたことで、子どもを多面的に見たり、自分の保育を振り返ったりすることが出来た。
- 園情報の発信については、各たより以外に写真掲示を行うことで、保護者に分かりやすく発信できたり、親子の会話のきっかけにもなったりした。
- 職員で連携しながら、子どもが主体的に環境に関わり、遊びこめる環境や援助の方法を探っていききたい。
- クラスだけで、子どもの活動の様子だけでなく、保育者のねらいや思いなどの発信を十分行っていきたい。
- 地域の方との交流、クッキング、園外保育が計画通りにできなかった。
- 園内研修は、参加回数や研修方法を再度検討し、保育に即、生かせる内容を取り入れていきたい。

4 来年度の経営の重点

- 子どもが主体的に環境に関わり、遊びこむ環境や援助の在り方を探る。
- 様々な体験活動を充実させ、意欲的に取り組む子どもの育成を図る。
- 職員の資質・能力の向上を目指す。

5 来年度の指導の重点

- 子どもたちが遊びこめるための遊びや環境構成、援助の方法を探り、改善を図る。
- 自然体験や交流活動等、様々な体験活動を年間を見通して計画的に意図的に行う。
- 短時間で効果的に研修や話し合いができるような方法を考え、園内研修の充実を図る。